

● 門徒会館の建築は、内部のクロス貼りがかなり進み、次第に雰囲気がつかめるようになってきました。トイレなどの床も貼れ、玄関の床もだいぶできました。次は各部屋の床板張りです。それが終われば大まかなところは出来上がり、電気とか機械の設備工事や細かい仕事になります。外部は花壇まわりができ、本光寺の門柱も戻ってきました。敷地の土の移動、碎石敷きもほぼできました。もうじき舗装をしますので通りに歩きにあまり不便

はなくなると思います。ただ本堂の北側や西側の工事がありますので今しばらく大型の機械が動きますのでご注意ください。



報恩講並びに研修会

日時:10月14日(土)

午後1時半受付

2時開会

会場:常勝寺(本郷)

会費:2,000円

お申し込みは同封のはがきで

聖典・念珠・門徒式章を
お持ちください

● 若松組仏教壮年会連盟の報恩講並びに研修会が本郷の常勝寺で別枠の通りおこなわれます。講師は上野龍映師(見頃西光寺住職)です。

● 本光寺の仏教壮年会の総会を別枠の通りおこないます。例年9月末におこなっていましたが、前号でお知らせしましたが、会館工事の進行も

考慮して一月遅れでおこなうことになりました。総会后懇親会を

仏教壮年会総会 のお知らせ

10月27日(金)

午後7時より

本光寺本堂にて

年会費 3,000円

例会費 3,000円

をご用意ください

出欠は同封のはがきで

ホームページを新しくしました。仏壮や仏婦のページもあります。そちらにも案内を出したいと思っています。住職の日記のようなものも掲載してます。

裏面は築地本願寺新報から記事をお借りしました。

おこなう予定です。会館が使用できませんので会場については役員会で相談します。役員会は10月20日(金)午後7時より本光寺でおこないます。

出欠は会員の方にははがきを同封します。会員以外でおいでになりたい方は本光寺までご連絡ください。

本光寺仏教壮年会 役員会のお知らせ

日:10月20日(金)

時:午後7時より

会所:本光寺

内容:総会の準備

「手ですることを足でする」

あるご門徒さんのお宅にお参りに伺った時のことです。そのお宅のお子さんが娘と同年代だったので育児の話に花が咲いたところ、「実は子供に恥をかかされたんですよ」というので、どうしたのか訊ねました。

「友人宅に子供を連れて訪ねたら丁度掃除の終わったところで、掃除機を片付けていたんです。友人は丁寧に電源ケーブルの巻き取りボタンを手で押していたんですが、それを見た子供が、「おばさん、それ足で押すんだよ」って。もう恥ずかしくつて・・・」

どうやらご自身が普段横着している姿をお子さんにしっかり見られていたようです。

子供は親の鑑(かがみ)といいますが、まさに自分の見本となってくれるものです。自分が気がつかなかったり、自分がいやな癖で直した方がいいなと思っているようなことをまねして見せつけてくれます。自分だけでは己の姿になかなか気付くことができません。

私はこのご門徒さんの話を聞いて、蓮如上人が「神にも仏にも馴れては、手ですべきことを足にてするぞ」とおっしゃっていることを思い出しました。

しかし、蓮如上人がおっしゃろうとしたのは、私たちの外面のことではないでしょう。もっと深い内面の問題です。外見ばかりを取り繕っても内面が伴っていなければ何にもなりません。

考えてみれば、私たちの周りには人権、環境、戦争、自殺などなど数多くの問題がうずまいています。にもかかわらず、日常生活に埋没し馴らされ、次第に鈍感になってきてしまっている自分に気付かされました。お念仏さえ称えていれば何をしても救われるんだから、というお念仏の誤った理解と何の違ひもありません。世間に馴らされ、誤った考えに流されて行く私たちの姿は「名ばかりの門徒、形ばかりの僧侶」と言われても仕方ありません。まさにお念仏を足で踏みにじることになってしまいます。

社会に流されて行くのではなく、積極的に念仏者として関わって、自らに問い社会に問うていく生き方が真の念仏者としての生活のはず

です。阿弥陀如来のみ教えをあおぎ、鑑として自らの本当の姿を映し出して確認していかなばと思いを新たにさせていただきました。

神奈川県 光明寺 北條 祐英
(築地本願寺新報 2006.10 月号)

「仏法に出会うと、 全ての事が他人事ではなくなる。」

次々と報道される悲しい事件を見ながら、どこかで耳にしたこの言葉を思い出しました。

子供を殺す親、親を殺す子供、友達を殺す友達。人間の持つ「感情」という宝物が、時にいのちを奪う起爆剤のような物になってしまうという事実。私はテレビやインターネットというフィルターを通した情報に囲まれているうちに、それらをいつの間にか他人事として捉えているような気がします。

「こんなことするなんて信じられない」「怖い世の中だなあ」そんな言葉の奥にはおそらく「でも自分には関係ない」という言葉が隠れています。そう口にする時、自分も罪を犯す可能性を持っている同じ「人間」だという事、その怖い世の中を作っている「一員」であるという事を忘れているのです。彼らが罪を犯した原因がたとえ相手に言われた一言であったとしても、そのたった一言を包みこめなかった背景には、彼らがその日まで生きてきた環境や、まわりにいる人達が大きく関わっているでしょう。そして、その「まわりの人達」をさらに取り巻くたくさんの「まわりの人達」がいて、と考えていくと、それは、水面の波紋のようにどんどん広がり、いつかは私の所にも…。

報道されている事件は決して自分と別の世界で起こっているわけではないという事を、しっかりと受け止めなければなりません。そんな私にできることは、仏法を聴聞し常に自分自身を見つめ続ける事、そして、わずかでも誰かの心に関わる可能性のある自分の言動に責任を持つ事だと考えています。

静岡県 教覚寺 南莊 泉
(築地本願寺新報 2006.10 月号)